

2022年12月25日(日)

老球の細道707号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トステイン・ロイブル」⑩

会津バスケットボール協会 室井 富仁

人生を変える出会いは、私にとっては三つのパターンがあった。一つは本との出会い、二つは人との出会い、そして三つはバスケットボールとの出会いである。

今回、トステイン氏との出会いを語るのに前置きが長くなっているが、このアメリカコーチングツアーに参加して佐藤光彦氏に出会えなければトステイン氏との出会いもなかったのである。私はこのツアーに3年間で2回参加して相当の出費を強いられたが、「若い頃は、頭と腹と見聞にお金を惜しむな」の教えを実行できたことに満足している。

現在は廃刊になってしまったが、当時バスケットボール専門新聞(後に月刊誌)「スポーツイベント」に写真入りの記事が掲載された。下記はその記事である。

【各種スポーツビデオの企画制作で定評を持つジャパンライム(株)(本社東京)では昨年の12月26日から新春4日までの10日間にわたるUSA・バスケットボール観戦ツアーを実施した。このツアーは今回で4回目となり参加者は19人。ロサンゼルスを基点にNBA,NCAAの観戦や、名門UCLA、USCの練習を視察、更にカリフォルニア大ドミンガスヒル校でクリニックを受けるなど本場のバスケットボールにどっぷりつかった充実スケジュールをこなし、参加者はいずれも満足感でいっぱい。合間にデイズニーランドにも足を伸ばして本物を楽しんだ】

現在はアメリカでのこのような研修ツアーはなくなり、もっぱらNBAの試合ツアーがあるだけである。コーチとしては試合だけでなく強豪チームの練習やクリニックに関心があるので残念である。この時のツアーには関東地区から2人の中学生が参加していた。20年以上も前のことであるが、年齢を問わず全国いたるところに情熱ある人物がいるものである。だから、熱心は最低のレベルであり、狂わなければ本物になれない。

『亭主元気でロス(留守)がいい』の話は今回で最後になるが、このツアーではバスケットボール以外の3つの貴重な経験もできたのである。

一つは、「グランドキャニオン」ツアーである。二日間の個人自由行動日があったので同行した稲村氏と共に専用ジェット機で行った。この世に生を受けたからには、できるだけ多く絶景、凄いものに出会いたいものである。「スゲー！」の数だけ生きている証を作る。

二つは、「ロサンゼルス美術館」一人巡りである。もう一日の自由行動日に実施した。デイズニーランドは前回のツアーですで行っていたのでキャンセルし、自分で英語を話しながら美術館やその周辺を散策することにチャレンジした。孤独が鍛えてくれる。

三つは、中学時代の同級生と会ったことである。彼女はUCLAでパーソナルトレーナーをしている。旦那さんが国際商社マンで数年前にロサンゼルスに転勤になったという。ビバリーヒルズにある「ビバリーヒルトン」のレストランに招待され、ハリウッドの俳優(?)が散見するゴージャスな雰囲気の中でKさん家族と束の間の食事を楽しんだ。〈続く〉